

たばたあずみ



Tell・Fax 550 6674

山根とみえ



Tell・Fax 550 4224

戸沢ひろゆき



Tell・Fax 558 9721

9月定例市議会

たばたあずみ議員の一般質問

日本共産党のたばたあずみ議員は、9月議会の一般質問で(1)子ども・子育て新システムについて(2)原発事故に関する市の対応について の2点について質問しました。以下、質問の要旨を報告します。

子ども・子育て新システムで待機児童は解消する？

たばた議員は、いま国が進めようとしている「こども・子育て新システム」を、市がどのように考えているか質問しました。市は、新システムの導入で、あきる野市でも需要の高い0～2歳児の保育園待機児が解消されると考えているとしました。しかし、始めから保育園入所をあきらめていたり、下の子が入れないので上の子の申請も取り下げるなど、申請されていない「潜在的な待機児」の数については、市もつかめていないとのこと。

たばた議員は、市が行った「あきる野市次世代育成支援に関するニーズ調査」の結果を利用した試算方法を提示し、潜在的な待機児が、新システム導入時に一気に表面化する可能性がある、十分な対策が必要と訴えました。

よりよい保育のために

本当に子どもの育ちを考えるならば、その場しのぎの「弾力的運用による定員増」ではなく、施設の増築や保育士の増員をした上での、基準を下げない定員の増加がもとめられます。まして、国が現在進めている特例措置による保育の最低基準引き下げなど、もってのほかです。たばた議員の要求に対し、市は、本市は特例措置の対象に該当していない、定員の増加については、いまのところ保育園新設の計画はないが、必要に応じてすでにある園で施設や保育士を増やし、定員増を図っていくと答えました。

たばた議員は、市がこれまでの保育園民営化では社会福祉法人に限定してきたことを評価しつつ、新システムでは保育料を投資などに使うことも認められるため、「儲けのための保育」がされる可能性が高くなることを説明。自分に起きたことを話せないちいさな子どもたちがターゲットにされる可能性が高いことを示して、本当に子どもたちにとってよりよい保育を保障するものになるよう、積極的に国に意見をあげるよう求めました。



ベランダでおままごと。今日はなかよしです。

原発事故への対応 市民の不安解消のために

市が市内68か所について行った放射線測定に対し、市民からは「測ってもらって安心した」「他も細かく測って」などの声が出ていますが、市は、市内を平均的に測った上、当初4か所だった定点測定を6カ所に増やしたので十分との考え。でも、こどもにかかわる人たちが心配しているのは、砂場や草むら、水路、塀など、こどもたちが遊びの中で、入り込んだりじかに触れるところです。たばた議員がこの点を指摘しても、市は、高いところを探して不安を与えたくない、気になるところは避けて遊ぶようにこどもに話してなどと無責任な回答。たばた議員は、どこに放射性物質がたまりやすいのか、実際の数値など、不安をあおるためではなく、安心のために調べるよう要求しました。



見えないけれども、あるらしい。ここはどのくらい...?

学校給食についても、放射能の影響を心配する声があることから、市の対応を質問。市は、2学期の始まる9月から、給食の献立表に産地を記載すると答えました。

「原子力への対応『見もの』と思う」

原発事故の影響を受けた福島県飯館村では、日本のふるさとともいべき風景はそのままですが、当分はそこで暮らすことができません。もし、茨城県東海第二原発や静岡県浜岡原発などで深刻な事故が起きたら、あきる野市も同じ状況になる可能性は十分にあります。本当にあきる野の環境を、市民を大切に思うなら、「脱原発」を国に意見すべきです。

たばた議員の質問に、市長は、「人類の英知で、原子力にどう対応できるかが見ものだと思っている」「原発事故に恐怖心が起こらないように、国に対策をお願いしたい」と答えました。住むところ、故郷、育てた野菜などすべてを奪われ、苦しんでいるひとたちの気持ちも考えない、とんでもない発言です。折しも市長は、他党派議員の質問に答え、市民の命と財産を守るのが地方自治の本旨と言ったばかり。

たばた議員は、被害を受けた人がこれを聞いたらどう思うか、そのような認識では、市民の財産・環境はおろか、命も守ることはできないと批判しました。

くわしくは

あきる野市HP「あきる野市議会」本会議録画中継」で

法律相談

10月27日(木) 13時30分～15時

予約が必要です。市議団までご連絡ください。

東日本大震災救援募金へのご協力ありがとうございます。

この間日本共産党あきる野市議団とあきる野市委員会が行ってきた街頭募金などに、41万円を超える救援募金が寄せられました。日本共産党全体では4億円を超える募金が寄せられており、すでに3県42市町村に送ったほか、その後集まった分も今後被災地へと送ります。引き続き取り組んでいますので、市議団までご連絡ください。

ネギ4箱の提供がありました

市民の方から市議団に、被災地にネギを送りたいが市でも受け入れを断られ、どこで受け入れてくれるかわからなくて困っているとの相談があり、急きょ日本共産党宮城県委員会に連絡を取りました。宮城県委員会では「食糧は大変ありがたい、必要としている地域や避難所に届けます」とのことで、送料を市議団が負担して送りました。



後日、「無事届きました、ありがとうございます」とのお礼の電話がありました。

日本共産党宮城県委員会は被害の大きかった名取川にも近い仙台市若葉区にあります。車を流された地域などに物資を配達しており、生鮮食品からレトルトまで、食糧は大歓迎とのことです。

食糧など救援物資を送りたいという方は、まず連絡を取ったうえで、直接送ってくださると助かります。

日本共産党宮城県委員会

電話 022 - 267 - 1511

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 1 - 12 - 25

あきる野市の支援物資受け入れは一時中止に

東京都の支援物資受け入れに呼応して始まったあきる野市での支援物資受け入れは、物資受け入れ側の自治体がパンク状態になったため、一時中止になっています。特に日持ちのしない食品などは管理・保管がむずかしいため、受け入れることができないそうです。

受け入れ側の要望があり次第、募集を再開します。3月25日までに寄せられた物資は、市で保管して、必要とされ次第、必要な自治体に送る予定とのことです。

自治体レベルではむずかしい支援物資も、民間レベルではうまく循環させているところもあります。市議団は、市での受け入れが無理でも、せめてその窓口を紹介するよう要望しています。

支援の申し出続々

市議団には、ほかにランドセルを送りたいなどの声が寄せられています。ランドセルは全国各地で取り組みがされており、呼びかけていた千葉の企業でも申し出の多さに一時受付を中止しているそうです。

今後、学用品など必要になることが予想されますので、その時々状況に応じて呼びかけを行っていく予定です。

日本共産党あきる野市議団の

東日本大震災についての申し入れに対し、市から回答がありました

計画停電について

4月・5月は原則として実施しないことになりましたが、実施の場合でも拜島～青梅・奥多摩方面の電車を走らせるよう、西多摩広域行政圏として申し入れを行っています。あきる野市長も要望活動を実施しているとのことです。

医療機関・在宅での酸素吸入などの利用者については、厚生労働省の対応方針が出たので、その依頼により放送など行っています。メーカーからも顧客に対しての安否確認を行ったり、計画停電の連絡を入れているなどの情報が入っています。その他、保健所で把握している患者さんには、保健所からも連絡がされています。東京電力でも器具の貸し出し等の対応をしているようだとのことです。

原発問題について

あきる野市内の水道水は、8割～9割が多摩川水系の小作浄水場からひかれており、また、五日市地区は地下水から引かれています。このため、放射性物質の心配はないとのことです。

野菜や水道水については、市独自に調査するよう、市議団として今後も要請していきます。

避難者の受け入れについて

楓ヶ原会館を受け入れ場所としています。風呂はありますが、台所は狭いので、生活福祉課から差し入れなど行いました。

利用していた避難者（一世帯）は、アパートに移ったため、現在利用している人はいないそうです。

受け入れは4月末まで延長となりました。

その他

防災無線については、試験放送の実施や、市民からの聞こえないという申し出を受け、業者に調査させています。調査結果を見ながら改善策を検討するとのことです。聞こえない地域の方は申し出てください。

(市役所 地域防災課 558-1111)